

税理士のひとりごと

税理士の佐藤です。

米国のトランプ大統領は 6/20、「これまで世界各地の多くの紛争を仲介してきた。その実績から考えると私は4、5回はノーベル平



和賞をもらうべきだった」などと記者団に訴えました。トランプ氏は、かつて安倍元首相にノーベル賞委員会に自身を推薦するよう依頼するなど、

同賞に強いこだわりを持っているとされています。

彼がノーベル平和賞を受賞できるかどうかはわかりませんが彼が歴史上、「最も記憶に残る米国大統領」だという事は多くの人が共感するでしょう…。

一方、「経験と勘」が勝負の投資の世界に「高い確率で投資に成功する」理論を発表し

た 3 名の学者が 1990 年にノーベル経済学賞を受賞しました。

マーコウイツは投資は外れるものと仮定して多くの投資家の行動に着目しました。また、シャープは投資に対するリスクを正しく捉える(失敗を減らす)ことにより投資に勝つ確率が高まるとの理論を発表しました。投資(資産形成)に興味のある方はご自分でお調べ下さい。

「成功する確率が高まる理論」がノーベル賞に値するのです。言うことは・投資に限らず、予想は外れる事を前提に、リスクを正しく捉える(失敗を減らす)事が肝心です。事業も「経験と勘」だけでは成功しない事をご理解いただけたら幸いです。

「何を選んだか」で勝負は決まる

魅力のない人物、デザイン、ネーミングがベストセラーになることはない。ベストセラーを生み出す秘訣は、「どう売るか」ではなく



「何を売るか」…正しいものを「選択する力」があれば成功する確率が高まる…と述べ本書(「人生の勝率の高め方」土井英司著)が始まります。

どうやら著者が書評を書くとベストセラーになるようです。今月は本のタイトルにちなみ「人生の勝率の高め方」について皆様と情報を共有させていただきます。

100%成功する選択肢はない

冒頭にも書きましたが、投資で確率を高める理論がノーベル賞を受賞するのですから人生においても、事業においても 100%成功する方法などありません。筆者は「選択が 9 割」との考えですが、選択をする上で大切なのは「100%の確率を求めないこと」と言います。成功するためのポイントは2つで「確率の高いものを選ぶ」、「試行回数を増やす」とシンプルです。

エイモス・トベルスキーは「人間は利益より損失を重く受け止める」との理論で 2002 年にノーベル経済学賞を受賞しました。つまり、人は「得をしたい」という気持ちよりも「損をし

たくない」との気持ちの方が強いのです。これは多くの人が共感する感情でしょう。

しかし、失敗したくないから何もしないと何も始まりません。仮に成功確率が 10%だとすると 10 回チャレンジすると必ず成功します。もしかすると 1 回目かも知れませんが誤差が生じ 11 回目かも知れません。しかし、確率の高いものに試行回数を増やすと間違いなく成功を手にする事が出来ます。そこが成功しない人と成功する人との別れ道なのでしょう。



選択基準を明確にする

先日、北洋銀行の株主総会に職員と勉強のため参加しました。頭取と個人株主との事前質問内容が決まっていないうちのやり取りは、なかなか面白いものです・・。

ある株主が御行は「純資産ベースだと 1 株当たりの株価が 1, 000 円なのに実際の市場価格は 500 円となっている。つまり、時価の半分の株価にしかなくていい。その事を頭取がどうお考えですか？」と質問しました。当然、株価を上げる努力をしていると答えました。投資をする上で



このようなバリューストックを買って株価が上がれば儲かる事は間違いありません。

バリューストック(割安)投資は成功確率の高い投資方法と言われています。筆者も「常に割安を買う」のもビジネスの鉄則と言っていますが安いもの、無料のものに良い選択肢はないとも言います。

AI 君に質問したところ「割安とは、一般的に、ある商品やサービスの価格が、その品質や量と比較して安い状態を指します。」と答えてくれました。割安と「その程度の価値しかないから安い」商品は似ていて非なるものです。「割安」は「選択基準」の一例です。皆さんご存じ投資の神様バフェットは「わからないものには投資しない」との基準を持っています。このように経営者が自分なりに「何らかの選択基準」を持つことは他社との差別化の第一歩です。

淘汰されなかったモノが良いもの

前段で触れましたが著者の本業は書評です。その筆者が良い本を選ぶ際に「新刊の中から」選んでいるのは効果的ではない、価値があるのは「時の評価を経てきた本」であると言います。

本に限らず長い歴史の中で淘汰されなかったモノが本当に良いものなのでしょう。これも何かを選ぶ際の一つの基準ですね！

(選挙において) 過去の統計というものは動かない。

僕は経験のほかに、統計というものを重視する。

田中角栄 (第 64 代内閣総理大臣)

編集後記：

最近の生成 AI 技術の進歩はすごいと思いませんか？ 北洋銀行でも行内業務に AI の活用を実験しています。現状は AI が概ね作った資料を人間が修正 (補正) するのが一番効率的のようです。

さて、私の⑩の情報を皆さんと共有します。先ほど紹介したノーベル賞の理論を組み、膨大なデータを分析して投資判断をする AI 投資 (ロボ・アド) と人間 (大手証券会社の経験と勘) が考えた投資対象を最近シミュレーションしていますが・・今現在、AI が人間に勝っています。しかし、投資は自己責任でご決断下さい・・ (寿)。